



富士電機株式会社
代表取締役会長CEO

北澤通宏

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第3 四半期における当社を取り巻く環境は、脱炭素化やデジタル化に向けた製造業やデータセンターにおける設備投資が堅調に推移しました。一方で、工作機械関連の需要が低調に推移し、電動車市場においても地域による強弱が見られました。

このような環境の下、エネルギーの安定供給や省エネなどに係るプラントシステムの受注拡大、需要に応じた生産体制の最適化や原価低減の推進による収益性改善に取り組み、第3 四半期累計決算は、売上高、営業利益、経常利益、純利益のいずれも過去最高を更新することができました。今年度も残すところ1 ヶ月程となりますが、2026年度中期経営計画に掲げる「利益重視経営による更なる企業価値向上」の基本方針の下、営業利益率10%超の達成を目指して社員一丸となって取り組んでまいります。

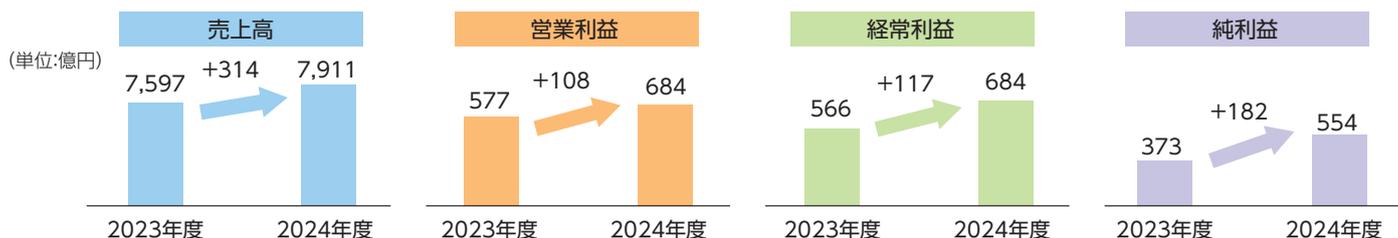
保護主義の台頭や地政学リスクなどにより、取り巻く環境は予測が困難で不確実な時代になっておりますが、脱炭素社会や循環経済への移行の過程で、エネルギー・環境に貢献する当社の役割は、さらに拡大していくものと考えております。将来の事業機会・リスクを念頭に置き、SiCパワー半導体、配電盤・電源装置の生産能力拡大に向けた準備を進めるとともに、中長期的な企業価値の向上に向け、当社の強みを生かした新事業の創出に取り組んでまいります。

季節の変わり目、寒暖差の大きい時季となりますが、株主の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛いただきますとともに、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2025年2月

第3 四半期累計決算 (4~12月)

売上高、営業利益、経常利益、純利益いずれも過去最高を更新



売上高

対前年314億円増加の7,911億円となりました。

- エネルギーはエネルギーマネジメント分野を中心としたプラントシステムの増加により増収。
- インダストリーはFA分野の在庫調整の継続影響があったものの、ITソリューションの大口案件などにより増収。
- 半導体は自動車向けの需要が減少したものの、産業向けの需要の増加や為替影響により増収。
- 食品流通は国内の自動販売機需要の増加や新紙幣発行に伴う改刷需要などにより増収。

営業利益

対前年108億円増加の684億円となりました。

従業員の処遇改善に伴う人件費の増加、半導体の生産能力増強に伴う減価償却費の増加や原材料価格の高騰影響があったものの、プラントシステム案件の増収に伴う利益改善、コンポーネント品を中心とした高付加価値商材の投入や製品価格の値上げ、原価低減の推進などにより対前年約19%の増益となりました。

純利益

政策保有株式の売却益の計上を主因として、対前年182億円増加の554億円となりました。

(単位:億円)

セグメント別	2023年度実績		2024年度実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	2,293	144	2,370	200	76	55
インダストリー	2,791	115	2,922	175	131	60
半導体	1,665	264	1,667	215	1	△49
食品流通	795	69	855	123	60	54
その他	467	30	416	24	△50	△6
消去または全社	△414	△46	△319	△52	95	△7
合計	7,597	577	7,911	684	314	108

セグメント別の業績予想（売上高、営業利益）について、足元の動向を踏まえ、エネルギーと食品流通を上方修正、インダストリーと半導体を下方修正しました。会社全体の業績予想は10月の発表値を据え置いています。

(単位:億円)	2023年度実績	2024年度(10/31予想)	2024年度(1/30予想)	対前年増減	対10/31増減
売上高	11,032	11,140	11,140	108	変更無し
営業利益	1,061	1,115	1,115	54	
営業利益率	9.6%	10.0%	10.0%	0.4%	
経常利益	1,078	1,115	1,115	37	
純利益	754	860	860	106	

決算や業績予想の説明はこちら

富士電機 IR説明会 検索

(右の二次元バーコードからもアクセスできます。)



第4四半期の前提為替レート(10/31予想から変更なし)

USDドル	ユーロ	人民元
¥140.0	¥150.0	¥19.5

セグメント別	10/31予想		1/30予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	3,450	310	3,510	330	60	20
インダストリー	4,130	385	4,080	365	△50	△20
半導体	2,360	340	2,310	325	△50	△15
食品流通	1,090	125	1,110	135	20	10
その他	560	38	570	38	10	0
消去または全社	△450	△83	△440	△78	10	5
合計	11,140	1,115	11,140	1,115	0	0

TOPICS

自動車向けSiCパワー半導体への投資拡大

自動車の電動化に伴うパワー半導体の売上拡大

世界的な脱炭素化の潮流の中、自動車の電動化が進展しています。

当社はモータを効率よく制御するパワー半導体を強みとして、ハイブリッド車などの自動車向け売上は、直近5年間で年平均32%伸長しています。

SiC*パワー半導体への設備投資拡大

電動車では航続距離の拡大と軽量化が課題です。更なる省エネ、小型・軽量化に向け次世代材料のSiCを用いたパワー半導体が注目されています。

当社はSiCパワー半導体の生産拠点として松本工場（長野県）に加え、子会社の富士電機津軽セミコンダクタ株式会社（青森県）にも今年度から生産設備を導入しております。

【(株)デンソーと共同申請した供給確保計画が経産省より認可を受ける】

当社はSiCパワー半導体の生産能力の更なる拡大に向け、株式会社デンソーと共同で事業総額2,116億円の「半導体の供給確保計画」を経産省に提出し、2024年11月に最大705億円の助成が認められました。

両社の製品開発力と生産技術力を生かし、国内のSiCパワー半導体の安定供給体制の構築に寄与するとともに、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

*SiC(炭化ケイ素)

SiCは、シリコン(Si)と炭素(C)の化合物。半導体材料として用いた場合、Siに比べて加工が難しく、高コスト。しかし、電力変換におけるエネルギー損失が少なく、出力電流を高めることができる。



自動車向けシリコン(Si)パワー半導体



助成を受け、2027年以降に松本工場(長野県)の生産能力拡大を予定

SiCパワー半導体の取り組みについて詳しくはこちら

富士電機 開発ストーリー #1 検索

(右の二次元バーコードからもアクセスできます。)



「親会社株主に帰属する当期純利益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。本報告書の将来についての戦略等に関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。